



佐藤栄佐久氏
(郡山の自宅で)

7

語る！

特別
寄稿

前福島県知事 佐藤栄佐久氏

私を鍛え上げた 3年間の浪人生活

コトワザでよく「役に立たない風は吹かない」とか言われますが、JC会頭選挙への私の挑戦は、結果的に思いもかけない新しい風を巻き起こしたようでした。

昭和五十四年の秋だったと思います。

ある日、郡山の橋本丑恵県議と遠藤正二県議が連れ立ってお見えになり、同十五年

の参議院福島選挙区に、自民党二人目の候補として私に立候補するよう強くおっしゃいます。

その前にも実は一、二度ほど、衆議院議員への話を持ちかけられたこともありましたが、私は政治への野心などカケラもありませんでしたから、即座に断っておりました。

党内では40日抗争

そう言えば、その前年の総選挙後、斉藤邦吉先生が自民党幹事長の時でした。党内では「四十日抗争」といわれる一大抗争がありました。

ところが、両先生ともなかなか強引で、松平勇雄県知事や斉藤先生、伊東正義先生まで引っぱり出してお勧めくださるのです。

ついには、「十二月三十一日の夜までに決着せよ」と、迫られました。

私は政治家になれるのだろうか、大体、政治家の資質とは何なのだろう。公人という

からには無私でなければならぬ。私は無私を貫けるだろうか――。

悩みに悩んだ末、正月に入ってから総理官邸で伊東官房長官とお会いし、さらに、議員会館で自民党の前幹事長だった斉藤先生にお会いし、その結果、ついに意を決し、立候補することにしました。

今振り返っても、あの時代の自民党の勢いはすごいものがありました。県内をみると、各派揃い踏みで、正直、政治には全く縁のない、私のような素人が出てどうなるのかというような状況でした。

JC活動を一生懸命やったといっても、私には全県的な知名度や支持基盤、さらにカバンがあるわけではありません。私が唯一頼みにするものは若さだけです。そこで、「若さを政治に！」というスローガンを考え、県内各地区のJC歴代理事長や、OBへの挨拶回りを始めました。

平のJCに伺った時は、歴

青年動き、世の中変わる！

参院落選が政治家への第一歩

その後も変わりませんでした。

落選の翌日から、私は県内の事務所を回り、お詫びを繰り返しました。伊東先生と奥様が常に言っておられた「落選の次の日から、私たちは二人で歩き始めたんだよ」という言葉が、頭に残っていたのです。

そういうえば、こんなこともありました。

長老の内郷の鈴木喜政県議が私を挨拶に連れていってくれることになり、早朝、三和町から出発。鈴木議員は当時七十歳を超える年でしたが、車を捨てて歩き始め、国道49号の旧道をたどり、一軒一軒

訪ねました。

多くの皆様へ感謝

平駅前には、日はとつぷりと暮れていたこと、三和町では、ほとんどの家の土間にイノシシの剥製が飾られていたことを昨日のことのように覚えていきます。

そのご縁で三和町のグリーンクラブの皆様には、チェンソーの使い方、「森・川・海」の「うつくしまふくしま」の原点を教えられ、毎年、山にも連れて行っていただきました。

いわきだけではありません



大平総理（当時）と歓談する筆者。大平総理はその直後、急逝

著者プロフィール 佐藤 栄佐久 (さとう・えいさく)

1939(昭和14)年6月24日生まれ。福島県郡山出身。県立安積高校、東京大学法学部卒。青年会議所活動などを経て83年の第13回参議院選挙に自民党公認で出馬、当選。88年、参議院議員を辞職して同県知事選に出馬、以後、5期連続当選。

知事在職中は、教育、環境問題に尽力する一方、東京一極集中、道州制などについて否定、さらに、政府、電力会社が進めるプルサーマル計画の導入についても反対を唱えるなど、“戦う知事”として県民の人気を集めた。ところが、県発注のダム工事に伴う「汚職事件」に関与したとされる実弟の逮捕によって、県政を混乱させた責任をとり、2006年9月、5期目の任期途中で辞職。その後、自身も逮捕される。12年10月、最高裁は弁護側、検察側双方の上告を棄却、懲役2年・執行猶予4年の最高裁判決が確定した。

☆ ☆
*高裁の判決は、「有罪」とする前提がすべて崩れているにもかかわらず、「無形のわいろ」や「換金の利益」といった従来の法の概念にはない不思議な理論と論法で「有罪」とした。この結果、「罪自体が不明」とし、「冤罪」を指摘する声も大きい。

著書に、『知事抹殺―つくられた福島県汚職事件』などがある。現在は、全国各地で国の体制・体質、原発問題などについて講演活動を展開中。

美しい写真とともにおくる、いわきのしられざる歴史と文化。

いわき

ムック版

定価 / 2,100円 (税込) ◆オールカラー / 158頁
写真 / アクアマリンふくしまの夜景 (撮影・赤沼博志)

歴史春秋社 〒965-0842 福島県会津若松市門田町中野大道東 8-1 TEL.0242 (26) 6567 FAX.0242 (27) 8110

ちゃんがらの国

私たちは「ちゃんがら」の真実を目の当たりにする。

定価 / 1,260円 (税込) 夏井芳徳

代理事長会に、市議になりたての先輩の四家啓助元いわき市長を招いてくださり、「栄佐久君、選挙ポスターを撮る時は、青い背広を着て赤いネクタイをするといいいよ」と、アドバイスをしてくれました。

大平総理が急死

定員二名の福島県選挙区には、社会党から八百板正先生、自民党からは鈴木省吾先生と私が立候補。「若さを政治に！」と訴えましたが、二万票弱ほど及ばず落選でした。

この選挙の時は、郡山駅前の街頭で大平総理が応援演説を行う予定でしたが、総理の急死で、葬式の日になった日でした。世の中は何が起きるか分からないのを実感しました。

(この選挙については、私が書いた『知事抹殺』でも触れているので、ご一読いただければと思います)

この時訴えた「富士山型から八ヶ岳型へ」、その後知事になり、「阿武隈山系型からネットワーク型へ」と、民主主義をベースにした、市民から出発する「国土も権力構造も集中ではなく、分散をしなければ」との考え方は、政治家としてのバックボーンとして、